

ヒロセ電機株式会社

2021年3月期 第1四半期 決算説明会 Q&A 要旨

Q1:

1Q実績に基づき、差し引きの2Q計画が低く見えるが、予想変更はあるか。

A1:

差し引きの2Qの売上・利益は低いが、これを最低限として今回は業績予想を据え置いている。

Q2:

分野別に今期の動向や取り組みに関して詳細に知りたい。

A2:

スマートフォン向け動向に関して。主要メーカー別動向は顧客情報であるため開示できないが、5G新機種向け需要には期待している。年間予想では下方修正したが、実際には発売後の動向によって変化あり予想の幅は広くあると考える。全体的には中国、韓国向けが若干下がるイメージをしている。自動車向け動向に関して。受注は足元で回復しているところもあるので、ここから上がってくるかとも思うが、見通せていないところもある。コンシューマ・モバイル機器向け動向に関して。伸び率は昨年度を下回るが、今年度も強いと感じている。モバイル機器(タブレット・ノートPC)に関しては構成比が少ないので伸び幅は大きくない。産機向け動向に関して。あまり読めていないが、2Qは1Qに対し減少する予想。日本向けが多いので年度末にかかる4Q需要の季節性はある。

Q3:

前四半期からの4Q-1Qにかけてのまとめ発注の動きを用途分野別に知りたい。

A3:

スマホ向けは顧客動向による。産機向けは汎用的な品物が多く広く出ている印象。

Q4：

下期の売上計画 650 億円には 1 Q 水準から切り上げる必要がある。どのように立ち上がるか。

A4：

今期はコロナ影響により特に先が見えにくいこともあり、下期に関しては、もう少し動向を確認してからアップデートするつもり。

Q5：

分野別見通しに関し、スマホ向けが減少し他が増えることは利益にどう影響するか。

A5：

スマホ向け予想の下方修正が半減等の大きな変化でなければ、収益性の全体影響は殆ど出ないと考えられる。

Q6：

産機向け 2 Q の動向、1 Q からの反動減はどの程度か。

A6：

第 2 四半期に一部で在庫調整による売上減少の影響があると考ええる。

Q7：

分野セグメント数値の開示の意義はどのようなものか。

A7：

用途分野別売上は、これまで構成比や伸び率のみでの開示で、受け側による認識のずれを感じることも時にあり、まずは正しく伝えることを優先。また、中計のセグメント別の進捗を表すときの整理を予めしておく意味もある。

Q8：

中国スマホで5 Gの普及比率が加速している恩恵はどのようなものか。

A8：

中国の現状5 G機の多くがSub 6であり、一見ハードウェアの変化はないようにも見えるが、スマホの通信容量増加や画像解像度上昇による内部信号伝送量の増加や急速充電の高電流ニーズにより部品の高性能化・高機能化が進んでいる恩恵がある。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。